

## 岡山県 高梁市教育委員会

【総人口】 25,197人

【主担当部局】 高梁市教育委員会こども教育課（公立・私立幼稚園・保育園・認定こども園、公立小学校担当）

【自治体 関連URL】 <https://www.city.takahashi.lg.jp>

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	0	1	0	1	1	4	1	0	12	0
園児・ 児童数	0	4	0	11	66	306	106	0	912	0

令和8年2月1日時点

事業実施地域・ 協力園校・ 指定園校	【実施地域】 高梁市
	【協力園校（数）】 園：市内全園（7）、 小：市内全小学校（11）
	【指定園校（数）】 園：公立認定こども園（1）、 小：公立小学校（1）

## 岡山県 高梁市教育委員会

### 【事業実施の背景と目的】

- ・全国的な傾向となっている不登校・いじめの児童・生徒数の増加と低年齢化は、本市においても大きな課題となっている。毎年、就学時から学校不適應や不登校となる児童がおり、また、落ち着いた授業が成立しにくい学級も増えている。
- ・本年度から本市は、国の「令和7年度 幼児教育推進体制等を活用した幼保小の架け橋プログラム促進事業」を受け、市内全ての小学校ブロックごとに園と小学校が連携し、架け橋期のカリキュラムの開発と架け橋プログラムの実践に積極的に取り組んでいる。この取組は、小学校就学後のいじめや不登校、学校不適應といった課題の解決に大きな成果を上げるものと考えている。
- ・研究指定園・小学校を指定し、市内全体の架け橋プログラム推進の先導役とするとともに、小学校低学年の不登校・いじめ対策等に資する園小連携・接続の在り方を研究し、その成果を市内全域に広げていく。

### 【事業実施の体制】

- ・昨年度、本市の架け橋プログラム推進の中核となる機関として設置した「高梁市架け橋期のカリキュラム開発会議」が、本事業の推進機関となる「高梁市調査研究実行委員会」を兼ねることで、架け橋プログラム推進の計画、実践、評価・改善を一体的に進める。そして、市内全園・小学校全体で取り組む推進組織・体制を構築し、架け橋期のカリキュラム開発とその推進に取り組む。
- ・経験豊かな架け橋コーディネーター（就学前教育アドバイザーを兼務）を配置し、研修制度・研修体制の確立や指導体制・相談体制の充実を図っていくとともに、架け橋プログラム推進について適切な指導・支援を行う。

<p>会議体 「高梁市調査研究実行委員会 （高梁市架け橋期のカリキュラム 開発会議）」</p>	<p>【会議委員人数】 14名</p>	<p>【開催数】 計 2回</p>
	<p>【委員属性】 公立認定こども園長 1名、公立認定こども園職員 2名、私立認定こども園職員 1名、公立小学校長 1名、公立小学校教員 3名、市こども教育担当者 2名、市就学前教育担当者 1名、市小学校教育担当者 1名、市架け橋コーディネーター（市就学前教育アドバイザー 兼務） 2名</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・架け橋期のコーディネーター</li> <li>・幼児教育アドバイザー</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>【配置人数】 2名</p>	
	<p>【内訳】 架け橋コーディネーター：2名（就学前教育アドバイザー 兼務：うち2名）</p>	

## 岡山県 高梁市教育委員会

### 【事業の取組内容】

#### 1 高梁市架け橋期のカリキュラム開発会議（調査研究実行委員会）の開催

時期	会議名	具体的な活動内容	組織
10月3日	第1回 会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動目的・方針の共通理解と推進計画の策定</li> <li>各小学校ブロック版架け橋カリキュラムの紹介及び推進計画についての点検</li> <li>架け橋プログラム推進の評価と、いじめ・不登校等に関わるに実態調査についての方法の協議</li> </ul>	委員
12月23日	第2回 会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>架け橋プログラム推進の評価方法・指標と、いじめ・不登校等に関わるに実態調査の内容の決定</li> <li>今年度の評価と次年度のカリキュラム作成の日程の決定</li> </ul>	委員

#### (1) 高梁市の架け橋カリキュラム開発と推進

- ・昨年度、高梁市架け橋期のカリキュラム開発会議が策定した「高梁市版架け橋カリキュラム」を基に、今年度9月に各小学校ブロックの園小が、めざす子どもの姿の実現と学校・園の実態や特徴を生かして、特色ある「小学校ブロック版架け橋カリキュラム」を開発した。
- ・10月から調査研究実行委員会を兼ねた本会議が主体となって、本市の架け橋カリキュラムの開発・実践と評価・改善の推進を計画的に進めた。
- ・架け橋プログラム推進についての評価と、園・学校生活への不応適や不登校・いじめ等の課題への有効性についての評価について、評価指標を作成した。



#### (2) 不登校・いじめ等の課題への有効性の調査活動

- ・1月、市内全ての園と小学校を対象に、本事業に関わる評価指針に基づき本年度分の評価アンケート調査を実施した。
- ・令和3年度から令和7年度の市内園児と小学校低学年児童の不登校・いじめ等の状況をデータ化し、来年度の高梁市架け橋プログラムの調査研究実行委員会で分析する準備を進めた。

#### ＜令和7年度 架け橋プログラム推進に関わる評価指標＞

- 学校・園の取組に関わる評価指標
  - (1)架け橋プログラム推進についての評価
- 子どもに関わる評価指標
  - (1)5歳児と小学校1年生の園・学校適応感のアンケート
  - (2)園児と小学校低学年児童の登園・登校渋りの人数調査
  - (3)小学校低学年児童の長期欠席者数及び出現率の調査
  - (4)小学校低学年児童のいじめ・暴力行為発生件数の調査
  - (5)学校不応適児童の改善事例（実践事例）

## 岡山県 高梁市教育委員会

### 2 研究指定園校の研究発表と研究内容（令和7年10月29日）：令和6年度・7年度研究指定園1 認定こども園、1 小学校

- ・研究主題：「自分っていいな！友達っていいな！自己肯定感を育む環境と援助の在り方～架け橋期の園小接続を通して育ち合う子ども～」
- ・内 容： ①公開保育・公開授業（交流活動を含む）  
②研究発表・研究協議 ③グループ協議
- ・参加者：市内全園(35名),市内全小学校(22名),大学(1名),  
市教育委員会(7名),県教育委員会(3名) 合計68名
- ・研究主題としている自己肯定感は、生きる力の基盤となるものであり、その育成は不登校やいじめの問題解決に大きく関わっていると考えた。架け橋プログラムの策定と実践を通して、架け橋期の園小連携・接続の取組と教育・保育の改善に取り組んだことで、子どもの自主性や協同性が高まり、自己肯定感の育成につながった。
- ・グループ協議では、協力園校として市内各園校で取り組んでいる架け橋プログラムについて紹介し合い、課題や今後の改善点について協議した。



#### 【事業の成果と今後の展望】

- 高梁市調査研究実行委員会を高梁市架け橋期のカリキュラム開発会議と兼ねて設置したことで、市全体の架け橋カリキュラムの開発・実践とその評価・検証を一体的に進めることができた。そして、市内全小学校ブロック版架け橋カリキュラムの策定とその推進を実現し、市全体でPDCAサイクルを生かした取組を定着させることができた。今後は、一層の改善と継続が課題であるとする。園長・校長や担当者、担任等の交代による活動の停滞や形骸化が危惧される。園や学校全体の取組となり、活動が定着し継続できる組織や体制を構築していきたい。また、今後、教育委員会の指導主事や架け橋コーディネーターが、園小接続会議や交流活動、保育・授業公開等に積極的に参加し、共通理解を図り協同して取組を進めていきたい。
- 研究指定園校での架け橋プログラム推進に関わる教育・保育の研究は、大きな成果を上げた。特に、架け橋期の園小連携・接続による取組は、子どもの自主性や協同性を高め、達成感や成就感を得て、自己肯定感を育むことにつながっていく。そして、そのことが、園や学校生活への適応性を高めることに大きく関わってくることが見え始めている。引き続き継続的な取組を進めるとともに、この成果を他の園小にも広げることが重要である。今後、市内全ての園小で、公開保育・公開授業、交流活動等の実践を通じた取組を計画的に実施していきたい。
- 架け橋プログラム推進と不登校・いじめ等との関係性の調査については、本年度は評価指標を決定し、初年度の資料を収集できた。今後、継続的な資料を基に実態を把握するとともに、有効性について分析していきたい。そして、それに資する架け橋期の教育・保育の在り方を探り、保育改善や授業改善につなげていきたい。